



イブラーヒームさま

(アライヒッサラム)

のおはなし

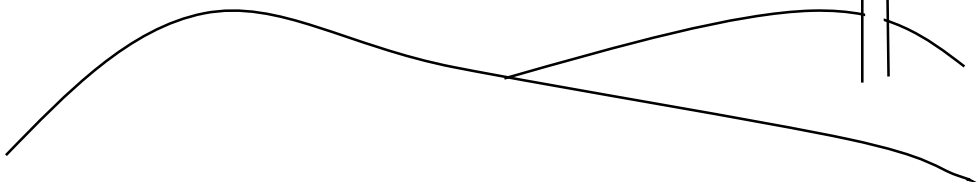
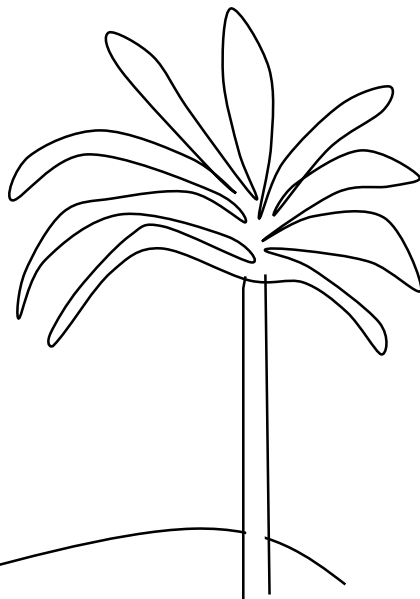
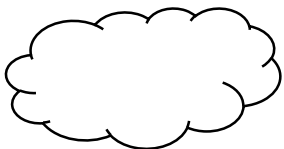
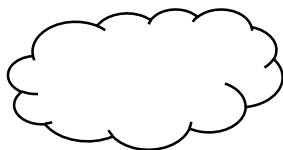
よげんしゃイスラーヒームさま(アライヒッサーム)は、イラクのウルというばしよ  
でうまれました。

### げんざいのイラクのちず

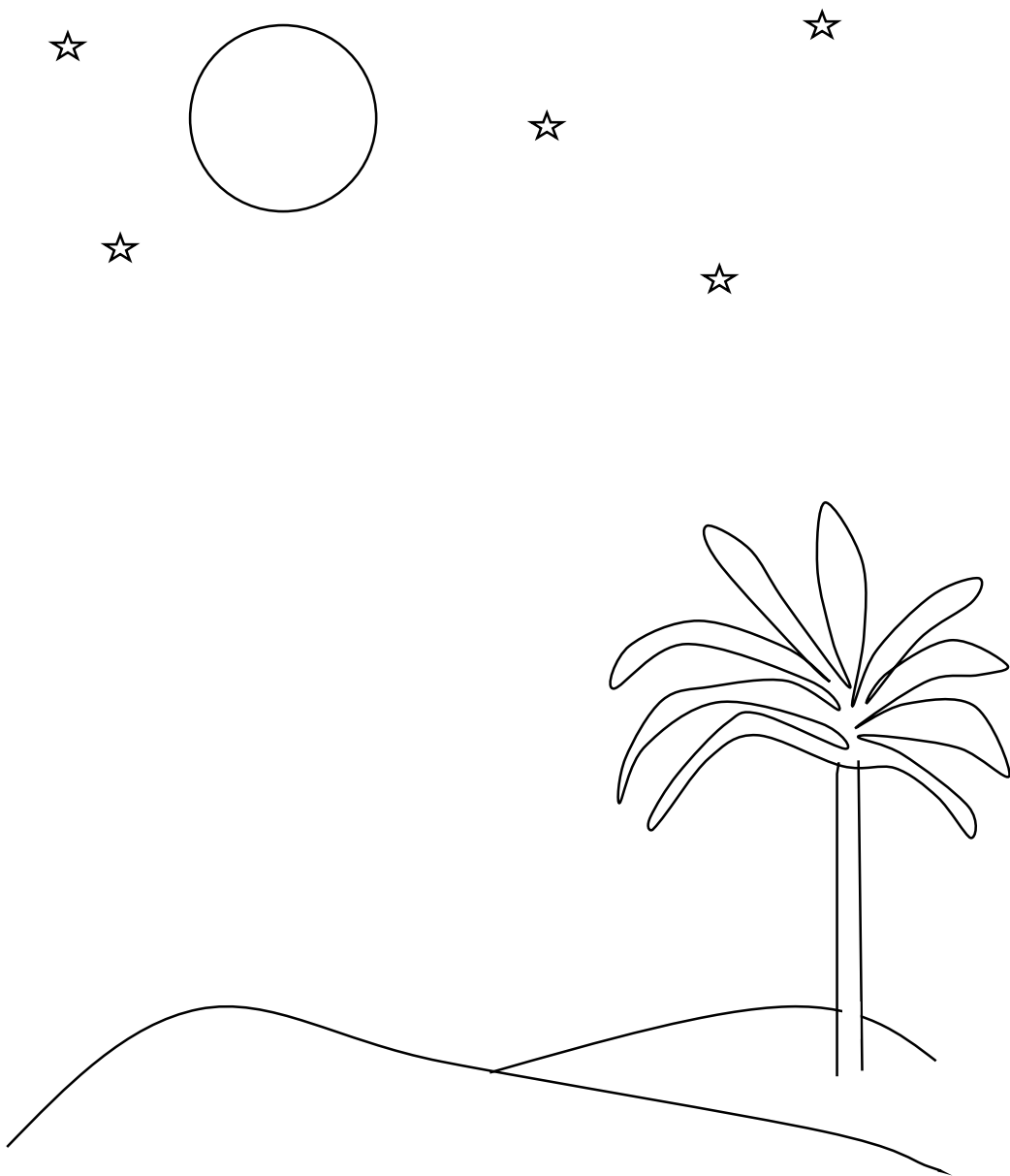


ウルのあったばしよ

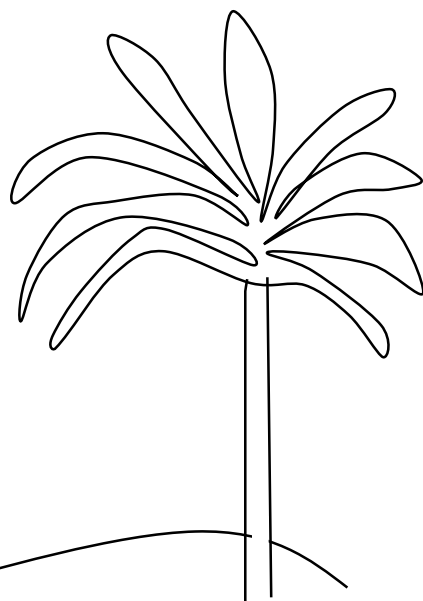
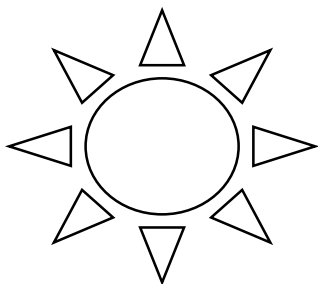
イブラーヒームさま(アライツァーム)は、あるひ、よるのくらやみのなかに、  
ひとつのあかるいほしをみて、いいました。「これがわたしのしゆです。」  
けれど、それがしずんでしまうと、「わたしはしずむものはすきではありません。」  
といいました。



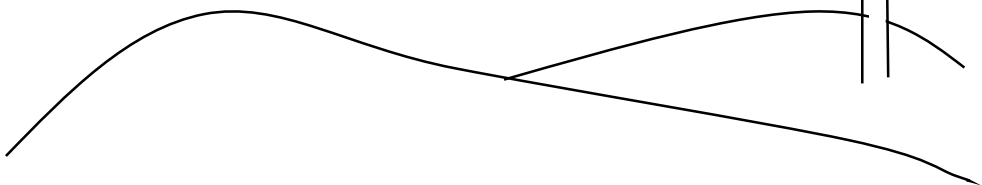
こんどは、つきがのぼるのをみて、いいました。「これがわたしのしゆです。」けれど、それがしずんでしまうと、「わたしのしゆがわたしをみちびかなければ、わたしはまよったひとびとのなかまとなっただろう。」といいました。



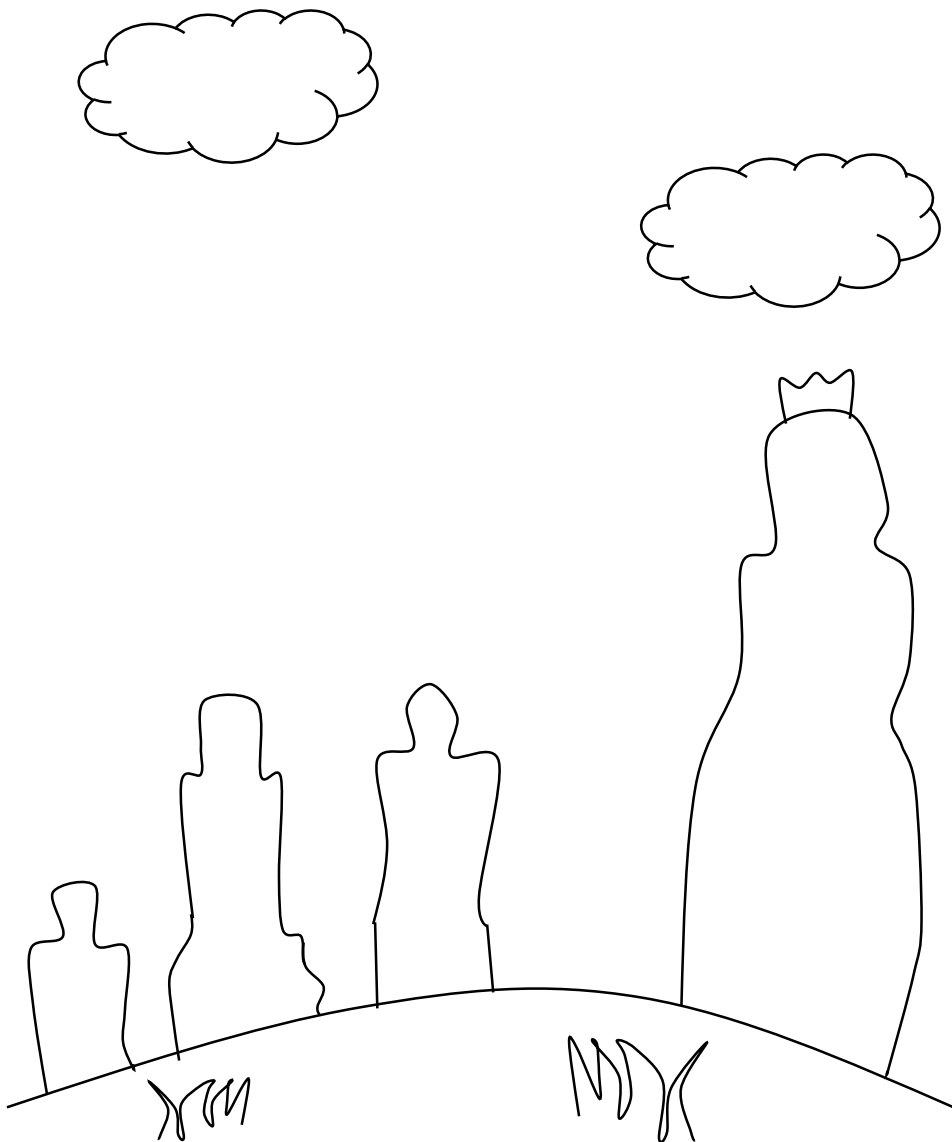
そして、こんどは、たいようがのぼるのをみていました。「これがわたしのしゆです。このほうが、さらにおおきい。」けれど、それがしずんでしまうと、いいました。ひとびとよ、わたしは、あなたたちがすうはいするものたちとは、むえんです。わたしは、わたしのかおを、てんとちをそうぞうしたおかたに、ひたむきにむけます。わたしは、たしんきょうと（アッラー-いがいのかみさまをしんじるひと）のなかまではありません。」



W



イブラーヒームさま(アライツァーム)のおとうさんと、まちのひとびとは、ぐうぞう(じぶんたちのてでつくった、にせもののかみさま)をすうはいしていました。



あるひ、イフラーヒームさま（アライツァーム）は、おおきなぐうぞうだけのこして、あとのぐうぞうをぜんぶこわしてしまいました。ひとびとが、「だれがこんなことをした？」ときくと、イフラーヒームさま（アライツァーム）は、「そのなかのいちばん、おおきいぐうぞうがやりました。そのぐうぞうにきいてみてください。」とこたえました。そこで、ひとびとは、じぶんたちのまちがいにきづいたけれど、またすぐにぐうぞうすうはいにもどったので、イフラーヒームさま（アライツァーム）はいいました。「どうして、あなたたちは、はなすことも、うごくことも、りかいすることもできないものをすうはいするのですか？」これをきいて、ひとびとは、イフラーヒームさま（アライツァーム）をころそうとしました。



ひとびとは、イフラーヒームさま（アイチツサラム）をおおきなひのなかにな  
げいれましたが、アツラーが「ひよ、つめたくなれ。イフラーヒームのた  
めにあんぜんになれ。」とめいじると、ひはイフラーヒームさま（アイチツサ  
ラム）にとって、つめたくて、あんぜんなばしよとなりました。  
スフムーナツラー！

